# 札幌市役所本庁舎あり方検討会（第３回）

## 議事要録

■日時　令和７年３月12日（水）午前10時～午前11時15分
■場所　札幌市役所本庁舎　12階４・５号会議室
■出席　石橋達勇委員、宇田川真之委員（WEB参加）、宇野二朗委員、伏木進委員、森太郎委員
事務局（浅村局長他）
コンサルタント（株式会社日建設計）、傍聴者13名、記者７名
■欠席　なし
■配布資料　1.議事次第
2.座席表
3.第３回検討会資料

1. 開会

2. 第３回検討会資料について

・**事務局**　第３回検討会では、これまでの検討を基に、整備パターン及び比較に必要となる視点を整理し、整備パターンごとに定性的、定量的に評価を行った。検討会のまとめとして、建替え案、改修案それぞれの評価結果に基づき、現時点で優位と思われる庁舎の整備手法を選択いただきたい。

3. 意見交換

・**石橋座長**　説明資料をもとに議論を進めたい。今回が最後の検討会となるため、委員から出たこれまでの議論の内容や今後の検討において留意すべき点を整理し、意見書として提出することを提案したい。意見書では建替えと改修の優位性や留意事項をまとめることを想定しているが、いかがか。

・**他委員**　問題ない。

・**宇田川委員**　低層階をフレキシブルな計画とする点が記載されており、低層部の会議室を、平常時は柔軟に活用できるようにするのが望ましい。ライフサイクルコストについては結果に異論無いが、災害対応の観点から、整備期間が長引くことで、整備期間中に災害に遭遇するリスクが高まる点に留意すべきである。新しい建物の方が、被災時の修復負担を軽減することにも繋がることが期待される。

・**石橋座長**　整備中に災害が発生した場合などに、整備費が大幅に増加する危険性があることにも留意するということか。

・**宇田川委員**　そういった可能性があるという観点で間違いない。

・**森委員**　建替えパターンがライフサイクルコストで最も優位という結果だが、跡地利用についても考慮すべきなのではないか。整備手法については、改修の方が環境負荷の面では有利だが、環境面だけでなく総合的に検討する必要があることは理解する。新築では建物のグレードが上がる一方で、$CO_2$排出量も増加する傾向にあるため、寒冷地を代表する自治体の庁舎としてZEB達成に向けた真剣な検討を求める。

・**石橋座長**　跡地利用は、今後より広い視点で評価を進めるうえで重要な要素であり、検討項目に追加することも考えられる。ZEB についても指摘の通り。

・**事務局**　跡地利用については、今後のフェーズで検討を進める。ZEB についても重要なテーマと認識しており、真剣に検討していきたい。

・**宇野委員**　資料に根拠が示されており、結論として納得できる。まちづくりの観点として市民利用の施設というだけに留まらず、周辺のにぎわいに資するものとしてほしい。P17「今後の庁舎のあり方について」の GX については、環境配慮、ZEB 化とともに記載する方が適切だろう。働き方や執務環境については、行政のあり方の変化に伴い、部署横断的な課題が増え、外部機関との連携も重要になるため、今後は連携のためのスペース確保も必要と考える。働き方の観点からも、人材確保の視点を踏まえた検討が求められる。また、施設整備には多額の支出が伴うため、財政的な配慮が不可欠であり、初期投資の多寡にとらわれすぎず、ライフサイクルコストを考慮した上で維持管理コストを抑えるなど、中長期的な視点を持って検討すべきと考える。

・**石橋座長**　官民を問わず人材獲得競争が厳しくなっており、働く環境の向上は重要な課題と認識している。特に、横のつながりが求められる中で、多くの職員が外部庁舎に分散していることは課題であり、職員同士の対面コミュニケーションの取りやすさも重視すべきと考える。また、新潟市では採用内定後の辞退者数が増加しているという記事を目にしたが、札幌市においても同様の課題を意識する必要がある。市の外部部局の業務量が増加する中で、本庁舎に集約されていないことによる横の連携の難しさは大きなデメリットであり、今後の検討において留意すべき事項として追加してほしい。

・**事務局**　建設場所は未定だが、新築にあたってはにぎわいの創出にも配慮したい。DX が進むほど対面でのやり取りの重要性も増すと考えられるため、その点も意識する必要がある。コストについても、市民への情報提供を徹底し、市民理解を得ながら進めていきたい。

・**伏木委員**　建替え案が優位とされた評価結果については納得できる。建替え集約案以外の案では複数の建物が残るため、効率性が低下し、メンテナンス面での課題も生じると考えられる。また、外部庁舎を借り続けることにはリスクが伴うため、集約を進めることが望ましい。これらの点を今後の留意事項として考慮してほしい。

・**石橋座長**　外部庁舎があることに対するリスクについての指摘があったが、事務局としてはどのようにお考えか。

・**事務局**　狭あい化を解消するためには、現状の賃貸面積の２～３倍借りなければならず、オフィスの空室がそれほど確保できるかどうかわからないという問題がある。外部庁舎の集約についてもしっかりと検討していく。

・**石橋座長**　定量評価の期間や定性評価の重みづけなど評価の仕方についてはいかがか。

・**森委員**　現在示されている課題は現時点でのものと認識しているが、将来の課題についての検討もあってもよかったのではないか。総務省の基準を参照して床面積を設定しているとの話があったが、最新の事例を踏まえ、フリースペースを増やしながら書類保管スペースを削減した場合の床面積の設定についても検討する余地があったと考える。また、紙資料の保管スペースは今後さらに削減すべきであり、将来の働き方を考慮した床面積の設定が求められる。今後の検討フェーズでは、20 代の若い職員も参加し、今後の働き方に関する意見を反映させることを検討してほしい。

・**石橋座長**　国内外の最新事例を参考にすることが重要。床面積の考え方については研究者が示すべき部分であり、宿題との認識。留意点に追記するのはいかがか。

・**事務局**　国内だけでなく海外の事例も参考にする。また、学生など若い世代がどのような環境で働きたいかについて委員の先生方の大学の学生にも協力してもらえればと思う。

・**石橋座長**　組織のあり方も変化する可能性があり、建築だけに留まらない広い視点での検討が求められる。現状の課題収集の際には若い世代の意見も取り入れていたとの認識だが、今後の検討を進める際にも若い世代の意見を盛り込むことがいいのではないか。局長のご意見を伺いたい。

・**浅村局長**　働き方や行政のあり方は今後さらに変化していくため、バックキャストの視点を持ちながら検討を進める必要がある。現庁舎を建設した時代と比べ、行政の役割も変化しており、将来的にも求められる機能が変わることを踏まえた対応が求められる。また、若手職員にとって現在の庁舎の環境が仕事のスタイルに合っていない可能性があり、フラストレーションを感じる要因になっているのではないかと考える。環境配慮や GX の視点も含め、今後の検討を進める中で、いただいた意見を真摯に受け止め、慎重に対応していきたい。

・**石橋座長**　人手不足の影響で、一人が二つの肩書を持つような状況になる可能性も考えられる。こうした変化を見据え、柔軟な組織体制や働き方を前提とした庁舎のあり方を検討していく必要がある。

・**宇野委員**　近年、建替えの際、行政資料の廃棄が問題視されている。建替えを機にすべて廃棄するのではなく、市の重要な資産として適切に活用する方策を検討すべきである。

・**宇田川委員**　防災時だけでなく、平常時の業務の働きやすさも重要と考える。能登半島地震では、定型的な業務はリモート対応が可能だった場合もある一方で、災害対応では同時に多くの業務が進行し、状況の変化も激しいため、複数機関や部署の人が集まって進めることが有効な場合もある。その際に必要となる面積については、研究課題としても認識しており、取り組みたい。

・**石橋座長**　病院における話であるが、緊急時の対応として、実際にすべての電気を落とす訓練を行うことがある。庁舎でも実際に災害が発生した場合をリアルに想定しながら計画することが求められる。

・**伏木委員**　メンテナンスのしやすさやメンテナンスフリーといった維持管理の技術は日々進歩しており、新しい建物ではインテリジェント化も進んでいる。人の手に頼らない技術が発展している中で、保守管理の観点も重要視し、長期的な運用のしやすさを考慮した設計を検討してほしい。

・**石橋座長**　新築であっても保守管理の重要性は今後検討してほしい。

・**石橋座長**　以上で完了とする。検討会のミッションを超えた意見もあったが、どれも重要な視点が含まれていたと考える。これまでの検討会の総論を意見書として提出し、今後の検討に活かしていただきたい。

4. 閉会

・**事務局**　意見書としてまとめられたものは、議事録とともに HP に掲載する。今回の議論を通じて、我々としても新たな気付きが多く得られた。我々の将来世代である子どもや孫世代のことも考えて検討を進めていきたい。

～11 時 15 分　閉会～

以上